

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句
令和元年十二月度 入選句（投稿総数二千六百六十四句・小中学投句数千九百四十六句）

特選

冬の朝兄の足あとふむわたし 大垣市

恩田 華捺子(小四)

白い息をはきながら登校する児童の列が思い浮かびます。地面にくつきり残る足あとをふんだのでしようか、それとも見えない足あとをふもうとした一歩なのでしようか。どちらにしても兄のことが大好きだという作者の思いが伝わってきます。季語の「冬の朝」の冷たさとは対照的なほのぼのとした温かさが漂う一句です。

クリスマスツリーの上にお手紙を 大垣市 なかやま なお(小二)

クリスマスのお手紙といえば、サンタクロースにあてた手紙でしょう。今年はどうなプレゼントをお願いしたのでしょうか。確実にサンタさんに届くために選んだ場所がツリーの上なんて素敵です。サンタクロースが必ずツリーを見に来ると信じる作者の心も素敵です。下五を「お手紙を」として願いが広がっていくように表現しているところに工夫が見られました。

一人ゆくつまさきうめる落ち葉道 大垣市 酒井 菜月(小六)

赤や黄色の落葉が吹きだまつた道を一人歩いているのでしょうか。いつもなら友だちと楽しく話しながら歩くのですが、この日は一人。落ち葉をふむ乾いた音が聞こえてくるようです。中七の「つまさきうめる」が印象的です。落葉をふんだ一歩でつま先がうまることがクローズアップされています。また一歩、また一歩と落葉道を楽しんでいるようです。

秀逸

空見あげポツリともらす春よ来い 加茂郡川辺町 村田 真捺(中三)

冬の空かげをつれて歩くぼく 大垣市 大澤 志紋(小六)

ぼしよの葉冬天めがけ手をのぼす 大垣市 堀 結 葵(小六)

押す椅子の祖母の笑顔のさき紅葉 大垣市 平田 ひなの(中二)

ゆきだるまずつとわたしのそばにいて 大垣市 わたなべ みお(小二)

ふゆのあさおうちのまどがらくがきちょう 大垣市 高木 望愛(小二)

さんたさん大きいくつしたおいとくよ 大垣市 豊永 蕾夢(小二)

雪だるまとけずにいてねあしたまで 大垣市 早野 莉央(小三)

秋の空上手になった一輪車 大垣市 神村 奏多(小四)

さんすうの九九をおぼえてあきのかぜ 大垣市 きくち あいか(小二)

入選

次の日に硬質化する雪だるま
 マフラーでかくれた君の赤い顔
 かじかんだ僕の手包み君は笑む
 さわやかな風にふかれてランニング
 たきしぶき秋風の音消していく
 秋の川こいが静かになみをうつ
 さわやかな川の中でしゃべるこい
 さわやかな風と一緒ににごっこ
 もやい船さくらかもみじが屋根つくる
 いしだんにすわってながめる冬の川

大垣市 加茂郡川辺町 渡 真(中三)
 大垣市 加茂郡川辺町 岩田 奈知(中三)
 大垣市 加茂郡川辺町 浅野 真寛(中三)
 大垣市 安福 脩人(小六)
 大垣市 国枝 由佳(小六)
 大垣市 細川 航平(小六)
 大垣市 永田 遥輝(小六)
 大垣市 栗田 愛結(小六)
 大垣市 安藤 遼真(小六)
 大垣市 小林 詩(小六)

入選

なわとびをきたかぜピューピューじゃまをする
 これからだうでまくりして大そうじ
 はくいきがきかん車みたいまっしろだ
 秋晴れだタイムが上がったペース走
 家族みな背を丸くする寒い朝
 冬の川およぐ魚は一れつに
 うんとこしょ大きくなあれゆきだるま
 ほめられた心に光るオリオン座
 雪だるま緑のバケツがあつてる
 ゆきだるまぼうしと手ぶくろのこしさる

大垣市 伊藤 晟(小一)
 大垣市 山田 隆之佑(小四)
 大垣市 中西 芽生(小二)
 大垣市 高橋 愛莉(小四)
 大垣市 太田 龍之介(小六)
 大垣市 しみず ひなた(小二)
 大垣市 浅野 明華(小二)
 大垣市 細谷 凜(小四)
 大垣市 豊永 悠斗(小五)
 大垣市 早野 太陽(小五)

選者吟

背伸びして葱の先つぽ陽をつかむ

佐知子